

(仮称) 西小倉地域小中一貫校基本計画素案
配置イメージ (案)

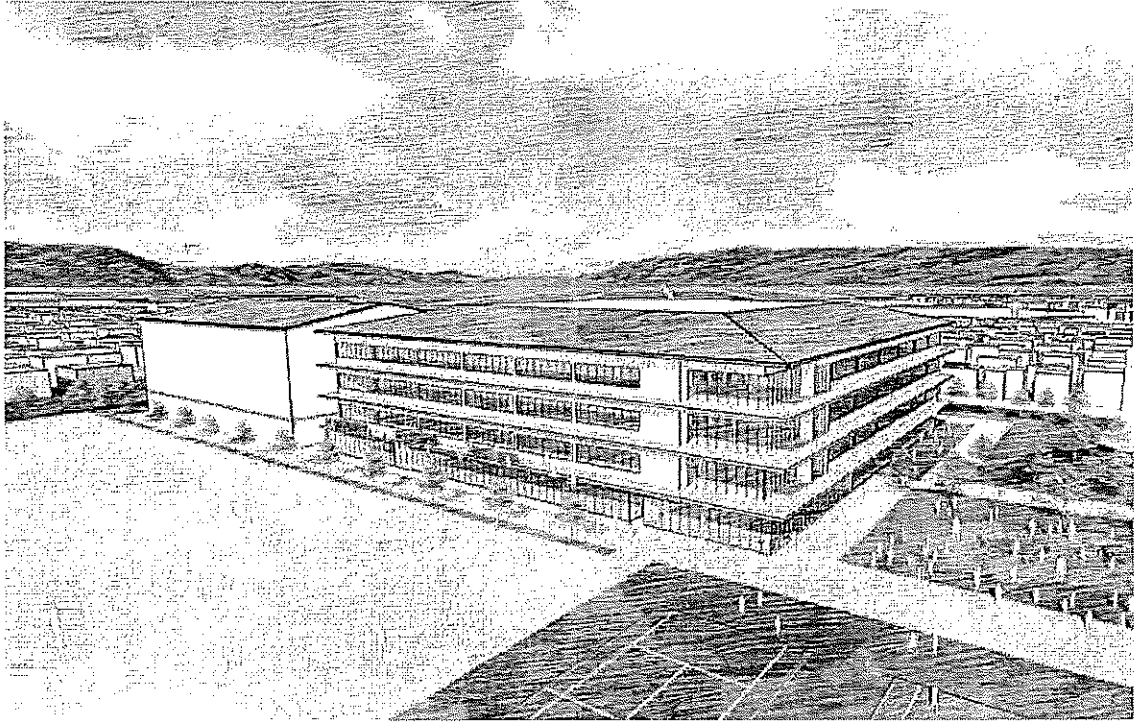
宇治市教育委員会
令和4年 6月

1. 敷地の条件、施設の規模

敷地	京都府宇治市伊勢田町遊田7番地の1（現：西小倉中学校敷地）
必要な施設	小中一貫校 校舎（小学校650人、中学校300人、計950人程度） 屋内運動場、25mプール グラウンド
用途地域等	第一種中高層住居専用地域、準防火地域
主な法的規制	建ぺい率60% 容積率200% 第二種高度地区 景観G地区
敷地面積	23,739㎡

※配置イメージ(案)における各種の図面は基本計画素案の内容をより具体的にイメージするために作成したものです。今後、基本計画、基本設計の中で必要な変更を加えていくため、この図面が基本計画となるものではありません。

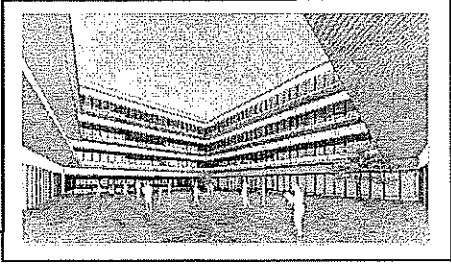
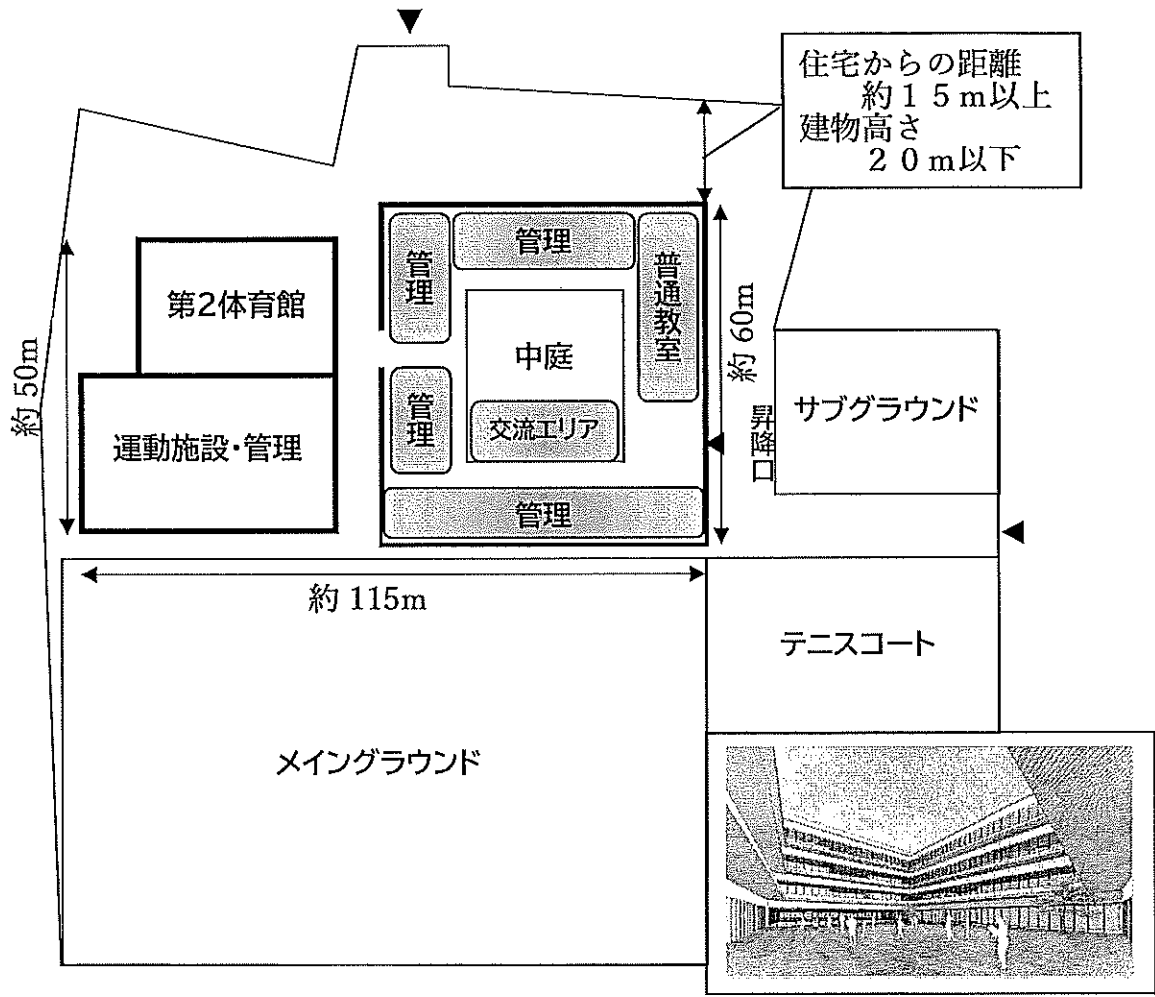
A案 <異学年の一体感を育む回廊型案>



イメージ図

回遊性のある動線により異学年の一体感・交流を促進する空間構成

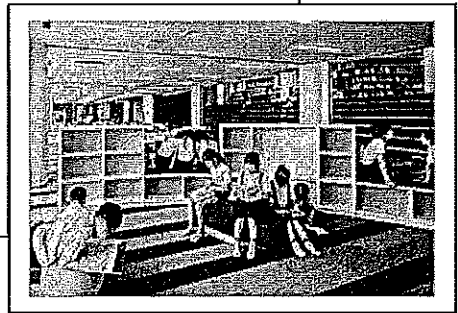
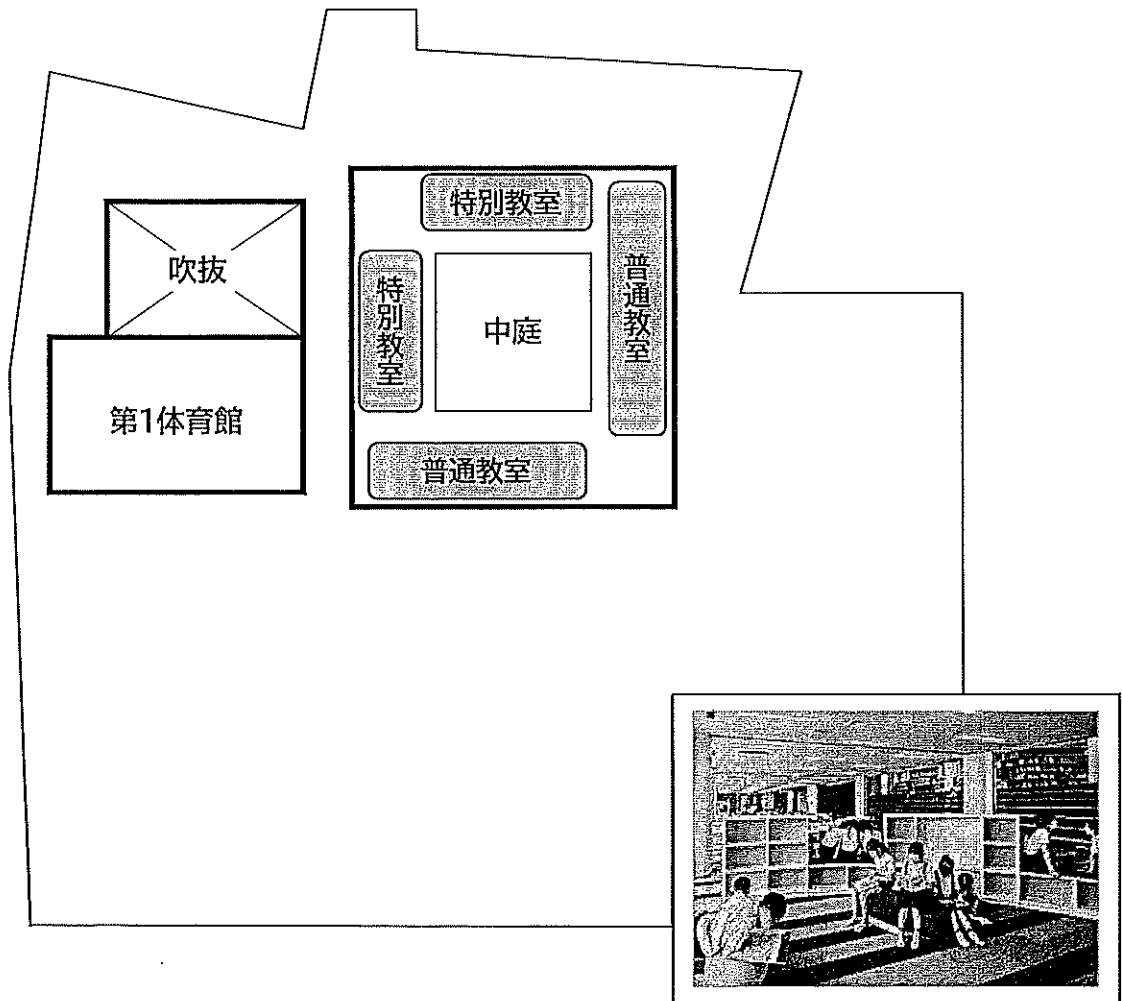
1階



中庭 イメージ

- ・中庭及び中庭と一体利用可能な交流エリアが異学年交流の場となるほか、イベントや屋外学習等、柔軟で創造的な学びに対応した活動が可能。
- ・異学年の活動の様子が校舎全体から見渡せる構造であることにより、子どもたちが異学年や多様な学びへの関心を抱き、成長と共に関係世界を広げていくことができる探究心を育む。

2階

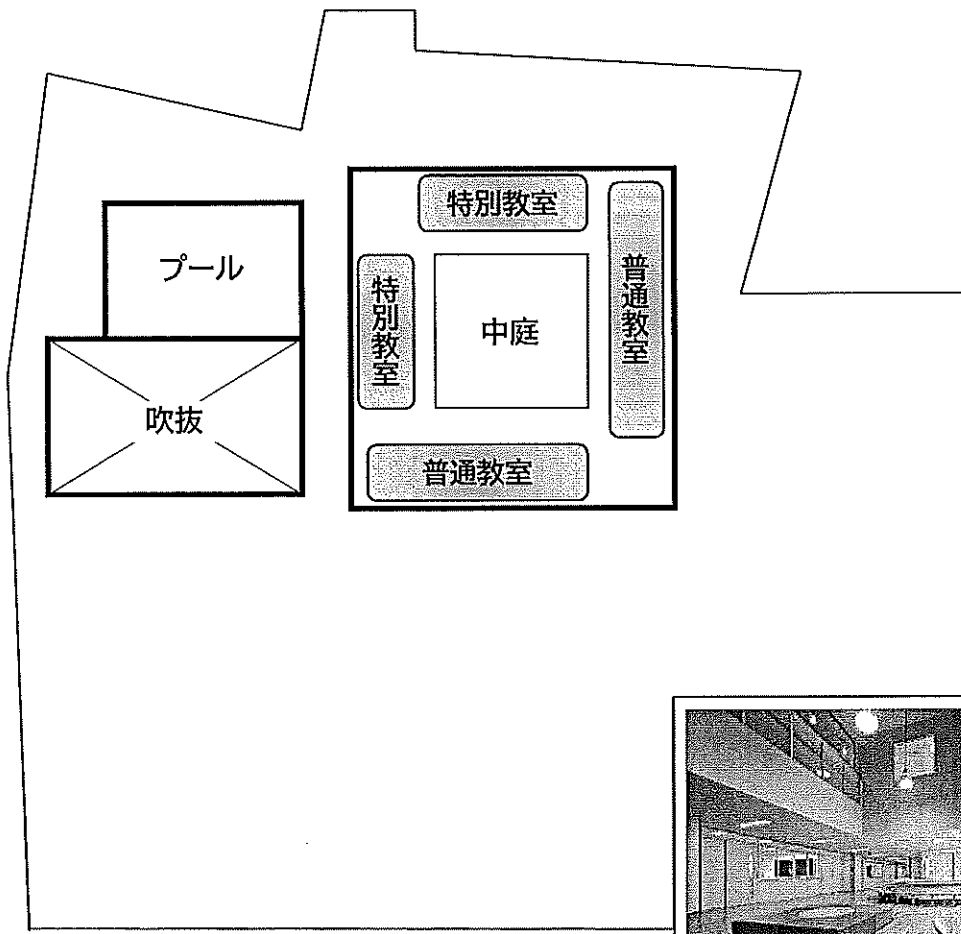


メディアセンター イメージ

・タブレット端末を利用した学習に対応するため、図書室の機能の他、本、ICT 機器を使い分けながら多様な調べもの学習が可能で、探究・協働・発表等多様な学びと異学年の交流を促すメディアセンターを整備。

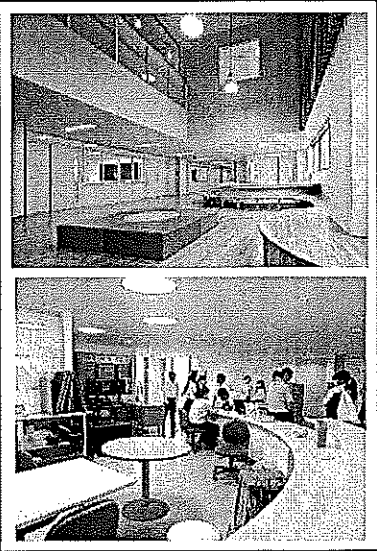
・交流スペース、メディアセンター等を児童生徒の動線の重なるポイントに配置することで、異学年の多様な活動の様子が感じられ、一体感を高める空間構成とする。

3階



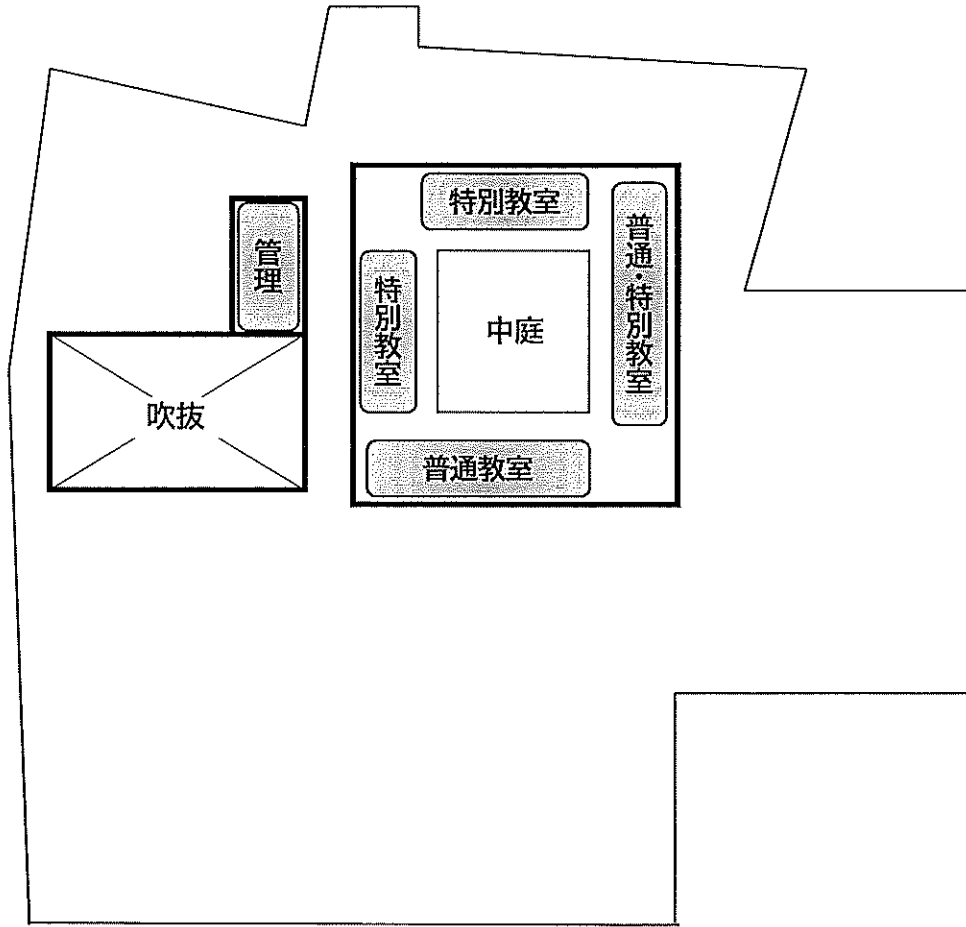
・児童生徒が気軽に教師と相談でき、教師、児童のつながりを生む教師ステーションや多様な学び、異学年交流の場として柔軟に活用できる交流スペースを配置。

・効率的でコンパクトな動線により、小中共用となる特別教室へ移動しやすい配置。

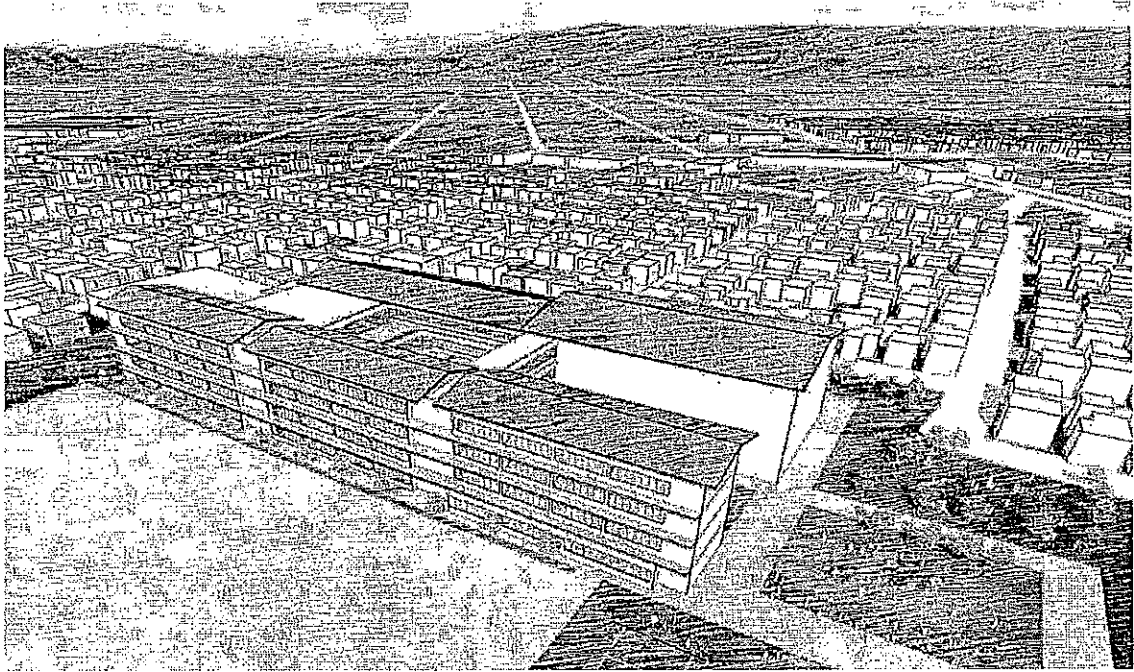


交流スペース イメージ

4階



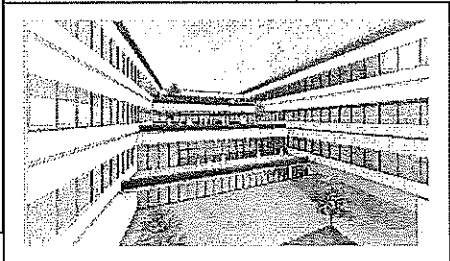
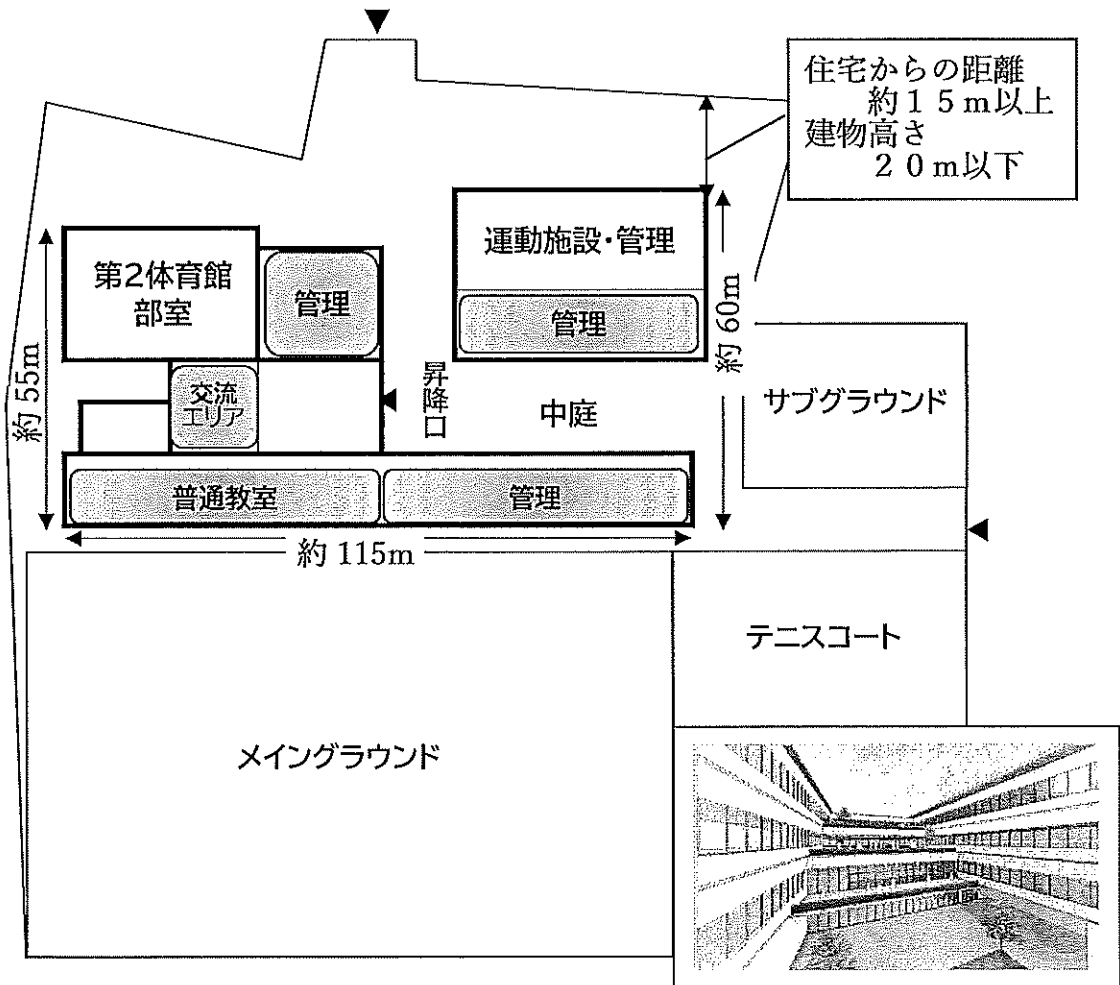
B案 <校舎棟を南側に配置した従来型案>



イメージ図

校舎棟を南側に一列に配置した視認性の高い従来型の空間構成

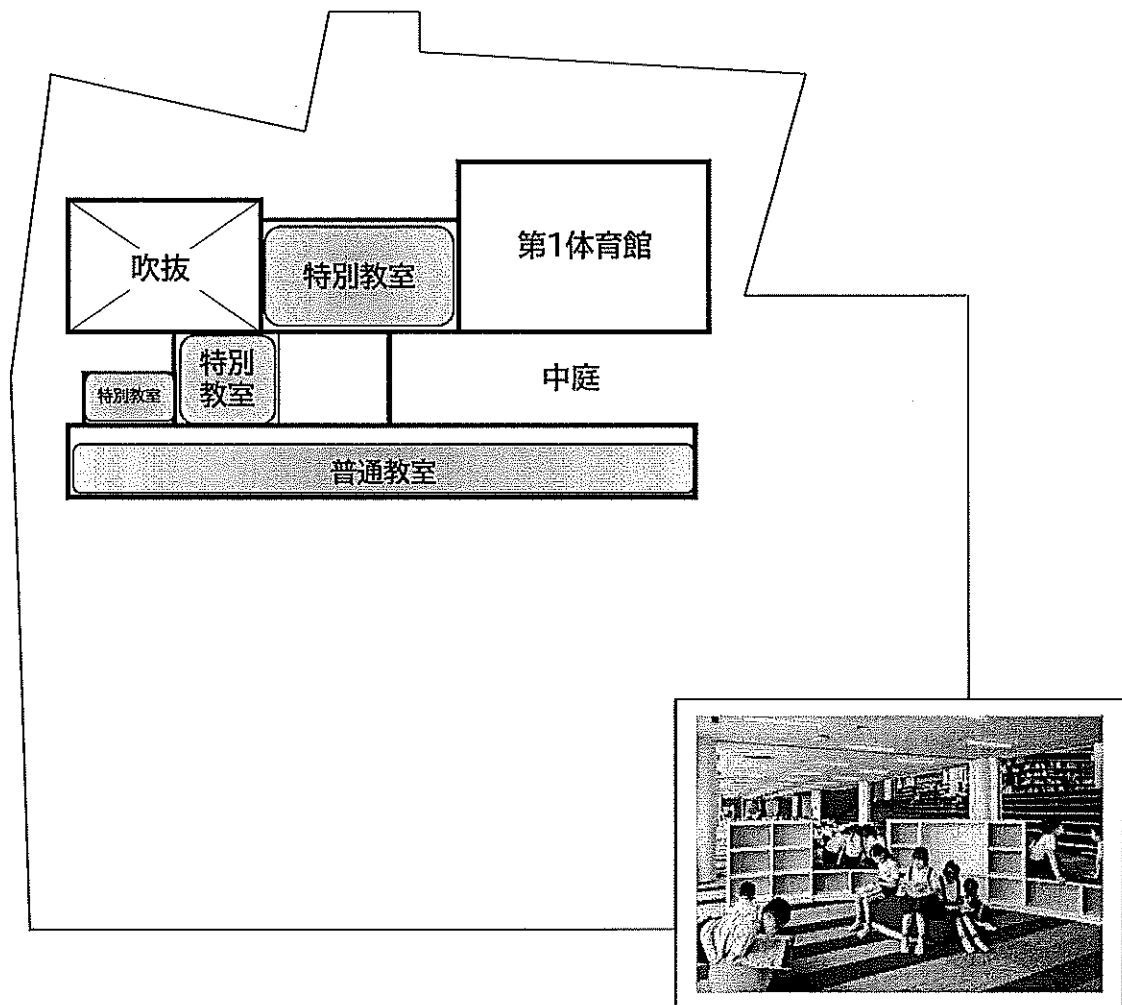
1階



中庭イメージ

- ・交流エリアが異学年交流の場となる。
- ・普通教室を南側に一直線に配置した視認性の高い構造であることにより、生徒指導が行いやすい。
- ・普通教室等が南面しているため、日差しを直接取り込むことができる。

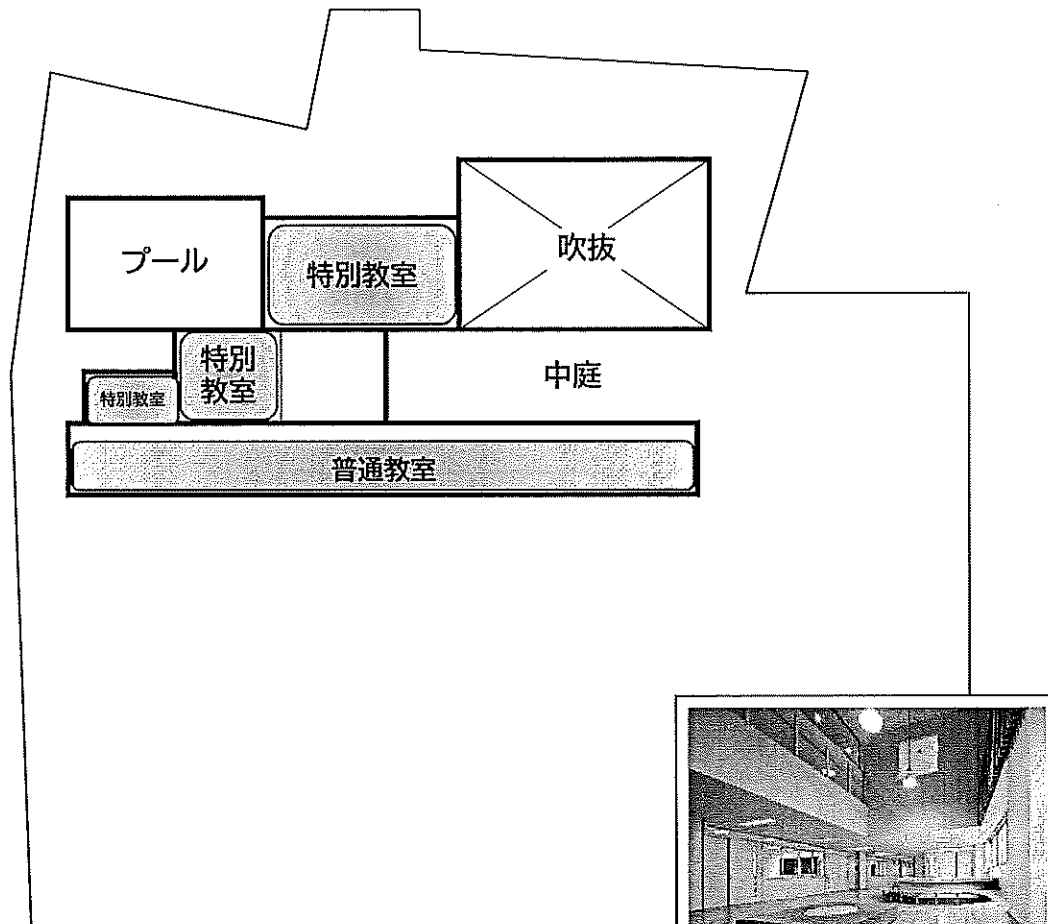
2階



メディアセンター イメージ

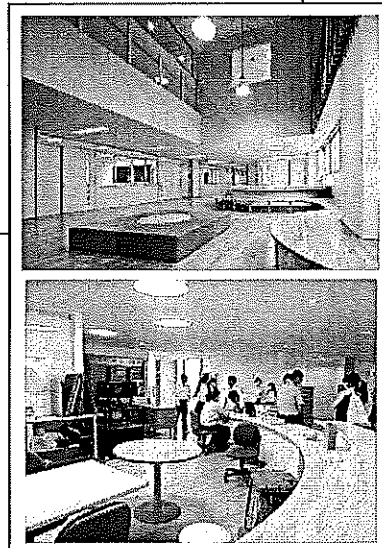
- ・タブレット端末を利用した学習に対応するため、図書室の機能の他、本、ICT 機器を使い分けながら多様な調べもの学習が可能で、探究・協働・発表等多様な学びと異学年の交流を促すメディアセンターを整備。
- ・交流スペース、メディアセンター等を児童生徒の動線の重なるポイントに配置することで、異学年の多様な活動の様子が感じられ、一体感を高める空間構成とする。

3階



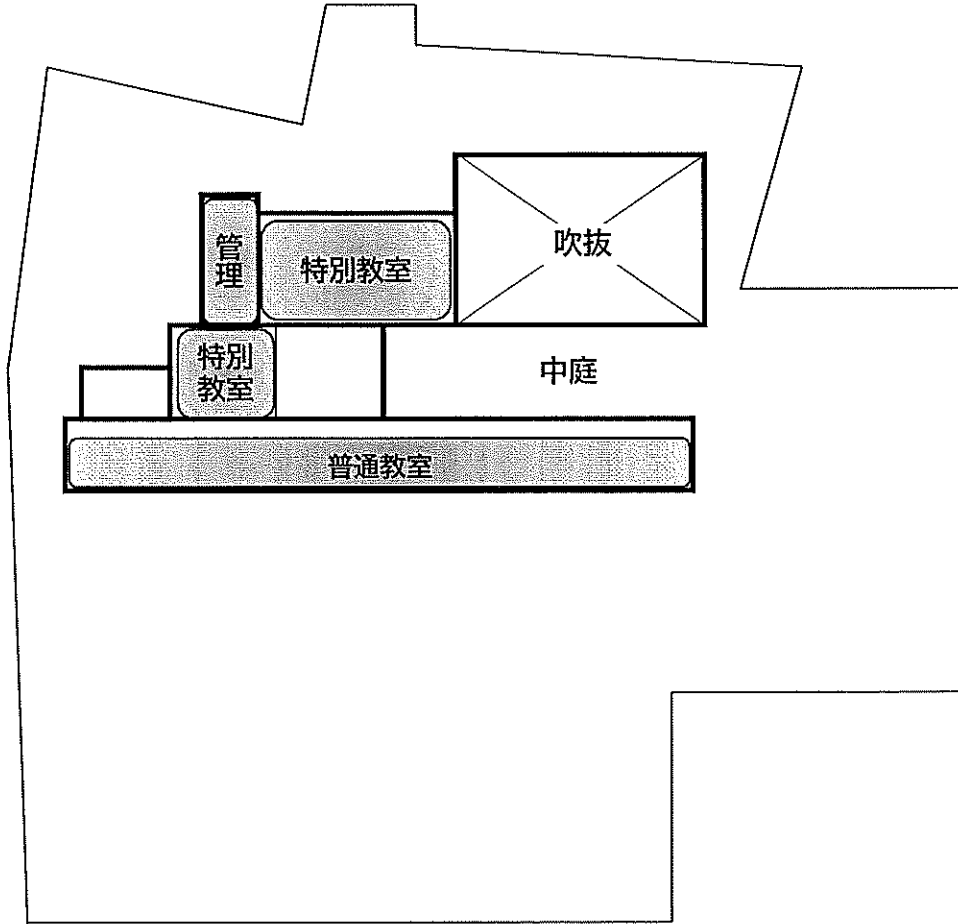
・児童生徒が気軽に教師と相談でき、教師、児童のつながりを生む教師ステーションや多様な学び、異学年交流の場として柔軟に活用できる交流スペースを2・3・4Fに配置。

・特別教室をまとめて配置したわかりやすい動線。



交流スペース イメージ

4階



1. 子どもたちが光り輝く小中一貫教育を推進する学校

○子どもたちの発達段階に応じた9年間を貫通した系統性、連続性のある多様な教育活動を効果的に行える施設

- ・ 学年単位のつながりを深める学年ユニット
- ・ 発達段階に対応したフロアゾーニング

○多様な異学年年交流ができ、9学年のつながりとふれあいで、互いに成長できる施設

- ・ 多様な仲間との一体感を高める動線計画
- ・ 異学年との学び合い・交流を広げるスペースの確保

○主体的な活動の支援や豊かな創造性を引き出すなど主体的な学びを実現する、認知能力と非認知能力を一体的に育む教育が行える空間や施設

- ・ 自然を感じ、仲間とつながるスペースの確保
 - ・ 中庭を活かした開放的な交流・学びの場
- 小・中学校教職員が協働して一つの学校として機能し、学校運営の一貫性を確保できる施設
- ・ 職員室などの管理機能を集約配置
 - ・ 職員同士の連携、子どもたちとの交流を育むスペースの確保

3. 安全・安心で、利用しやすく、子どもたちが楽しく通える学校

○多様な発達段階の子どもたちが、のびのびと活動できる快適性と安全性を備えた空間や施設
(工事期間中の安全確保も含む)

- ・ 成長段階に応じた屋外活動スペース（メイングラウンド・サブグラウンド）
- ・ 児童生徒の安全に配慮した工事計画

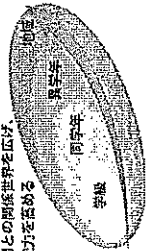
○学校生活の中で、集中とやすらぎの調和がとれた施設

- ・ 自然素材を活用し、温もりのある、心を落ち着かせる学習環境
- ・ 採光・通風を確保し、明るく快適な環境づくり

○ウィズコロナ・ポストコロナ時代における新しい生活様式や、防犯面、ユニバーサルデザインに配慮し、利用する誰もが安全安心に過ごせる施設

- ・ 施設中央に中庭を設け、教室や共用部に風が通り抜けやすい屋内環境の確保
- ・ 見守りやすく、管理しやすいセキュリティ計画（門・昇降口・グラウンドを視認しやすい職員室配置）

仲間との関係世界を広げ
探究力を高める



学年を超えて、同学年から異学年、地域へと関係世界を広げ、好奇心や興味関心、探究力を高める学びの場

2. 多機能で変化に対応し、多様な教育課題に対応できる学校

○機能性や柔軟性、可変性を持つことにより、随時変化する多様な教育内容や教育方法に対応できる施設

- ・ 対話型授業にも対応できる、教室の機能性の確保
- ・ 多目的な活動が展開しやすいスペースの確保

○学校施設全体が柔軟で創造的な学びを実現できる空間であり、どこでも教育の場、表現・交流する場、心のゆとりと豊かさを育む場となる施設

- ・ 多様な交流が行えるスペースの配置
- ・ 校舎全体に光と風が行きわたり、自然を感じることでできる環境づくり

○ウィズコロナ・ポストコロナ時代において、すべての子どもたちに学びを保障する、新しい時代の学びを支える教育環境を提供できる施設

- ・ GIGAスクール構想、ICT教育など、新しい学びに対応できる教室環境の確保
- 教育活動に必要な機能を確保しつつ、イニシャルコスト・維持管理コストの削減を図り、長寿命化にも配慮した施設
- ・ 構造の合理化等によるイニシャルコスト・維持管理コストの削減
 - ・ 清掃・修繕しやすく長寿命化に配慮した計画

4. 家庭・学校・地域が連携・協働し、互いの安心と信頼が生まれる、地域のシンボルとなる学校

○学校運営協議会制度（コミュニティスクール）と地域学校協働活動を一体的に推進し、地域の教育力を積極的に活用した教育活動ができる施設

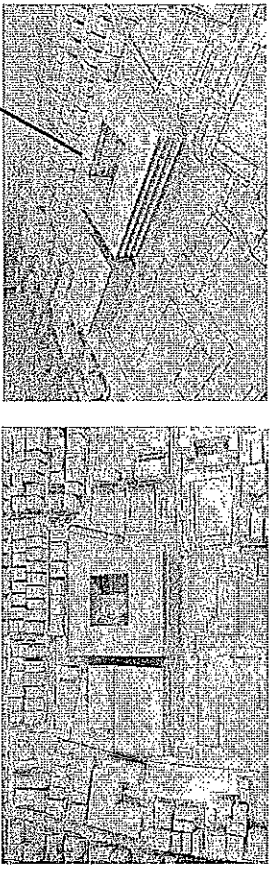
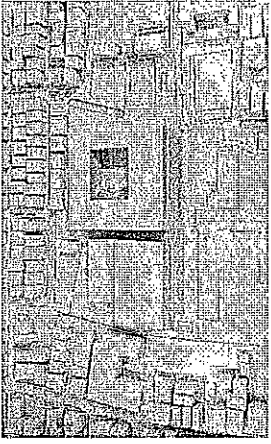
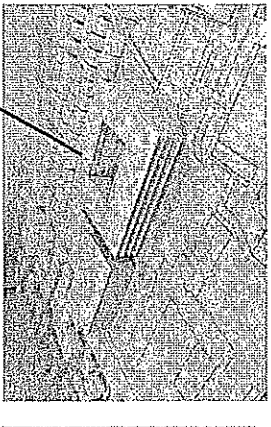
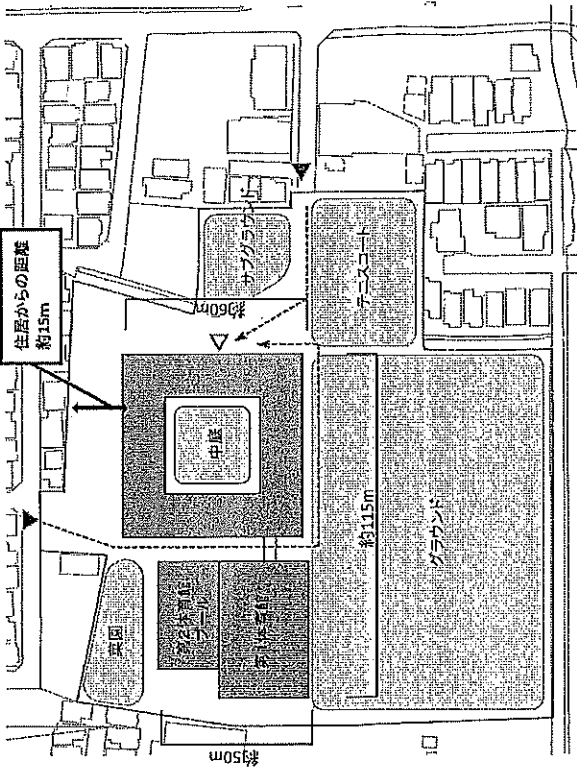
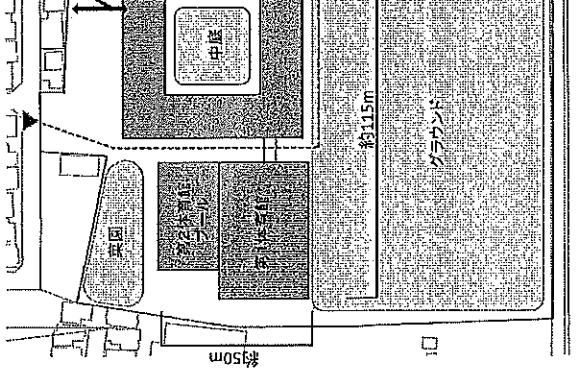
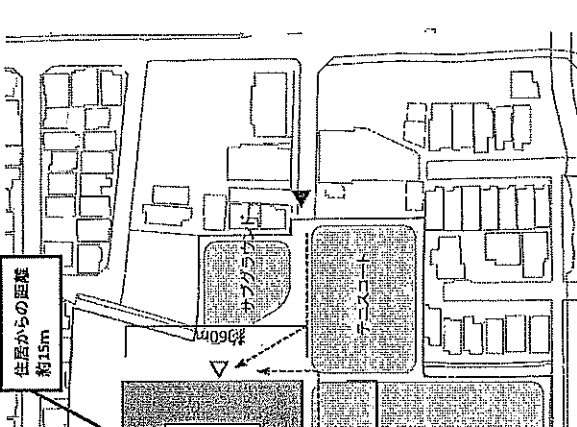
- 子どもたちの学びを地域ぐるみで支えることができる施設
- ・ 地域開放機能の配置
- ・ 地域の多様なイベントを開催できるスペースの確保

○自然エネルギーの効果的利用などにより、持続可能な教育環境の実現に配慮した地域のシンボルとなる施設

- ・ 自然採光・通風による、空調・照明負荷の低減
 - ・ 費用対効果の高い設備機器、環境技術の採用
- 地域防災や地域コミュニティの活性化の役割が担える地域の核となる施設
- ・ 避難所等の防災機能の確保
 - ・ 避難所エリアと学校運営エリアのゾーニング

「同学年から異学年、地域へと関係世界を広げ、探究力を高める学び舎」

■ 配置のイメージ (案)

	A案	B案
<p>模型写真</p> 	<p>建物高さ20m</p> 	<p>建物高さ20m</p> 
<p>配置図</p> 	<p>建物高さ20m</p> 	<p>建物高さ20m</p> 
<p>特徴</p>	<p><異学年の一体感を育む回廊型案> 回遊性のある動線により異学年の一体感・交流を促進する空間構成</p>	<p><校舎棟を南側に配置した従来型案> 校舎棟を南側に一列に配置した視認性の高い従来型の空間構成</p>

